



1月18日(土)
発行所
庄内日報社
本社/〒997-0035
鶴岡市馬場町8-29
電話0235(22)1480(代表)
酒田支社/〒998-0045
酒田市二番町6-2
電話0234(22)4244(代表)
©庄内日報社 2020

本社代表
TEL(0235) 22-1480
購読のお申し込み
TEL(0235) 22-1481
広告のお申し込み
TEL(0235) 22-1479
FAX(0235) 22-2633
印刷のお申し込み
TEL(0235) 22-1724
編集のお問い合わせ
TEL(0235) 22-1482
FAX(0235) 22-1427
ホームページ
http://www.shonai-nippo.co.jp/

産婦人科・小児科
三井病院
0235(22)3290

若い感性あふれ

酒田駅周辺整備事業関連の「月のホテル」にアイデア次々提案

酒田市のJR酒田駅前を進む駅周辺整備事業に關連し、今年11月に新規開業するホテル「月のホテル」の一階レストランの名称、コンセプト、料理などを検討してきた東北公益文科大学(同市、吉村昇学長)の学生たちによる報告会が16日、学内で行われ、若い感性で構築した計画を次々と提案した。

地域貢献策具体的に

駅周辺整備事業は、市とスコ跡地を中心とした敷地西松建設の共同出資による「光の湊」が事業主体となり、第一種市街地再開発事業として酒田駅前の旧ジャ



今回の授業は、地域の企業団体から提示された課題に対し、複数のグループが解決策を検討、その優秀を競う競争型課題解決演習の一つ。「月のホテル」を運営する「月見」(同市、白旗夏生社長)が一階レストランの運営企画案の検討を依頼。経営コースで学ぶ2、3年生11人は昨年10月からA、Bの2チームに分かれ、倉持一公益大准教授(経営戦略、Coopなど)、白旗社長、市職員らの指導でこれまで12回の授業を行い、名称、コンセプト、デザイン、料理、販売促進について検討を重ねてきた。

学生ならではの感性で構築した提案を発表する公益大の学生たち

最後の授業となった報告会では白旗社長はじめ月見中、チーム単位で報告。ホ

鶴岡で新酒「酒林」作り大詰め!!

新酒の時期を目前に控は特になどのこと。17日、大詰めの迎えている。鶴岡市大山の酒造り組合本所では11日から制作実行委員会の小野寺光廣代表(75)と小野寺瓦工業社長(75)を中心とした作業が始まり、25日の完成を目指し大小合わせて8つを制作中。今年と同市大山の三笠屋から杉の提供を受けての制作で、今年の杉の葉には雪のない暖冬の影響



青々とした酒林に仕上げのはさみを入れる制作実行委員17日

テル名にちなみ両チームともコンセプトは「竹取物語」。Aチームは「月の竹姫(かぐや)」、Bチームは「月のみち」という名称で、内装はいずれのチームも竹やびょうぶ、こたつを用いるなど和のテイストにした。Aチームは趣打ちやてんぷら調理などを利用者の目の前で行うオープンキッチン形式を提案。Bチームは昼から夕にかけてスイーツバイキングを実施、地域貢献として地元の福祉作業所で製造する菓子も並べ

秋の味

一般家庭からすっかり姿を消したネズミだが、戦後の衛生環境が悪かった頃、家中を走り回って悪さをするネズミに人は大いに悩まされた。そんな様子を物語る、小さな新聞記事が目についた。

「1946年11月13日の『庄内自由新聞』(庄内日報の前身)の、ネズミ駆除の記事。見出しは「姿を消した『鶴岡の鼠』」。さらに「5万364匹捕まえたが、計算漏れもある」と。捕獲数を当時の鶴岡市の8644世帯から割り出すと、1世帯当たり6匹。駆除は真内一斉の実施で、駆除には殺鼠剤を使い、その数は13万3306個。1世帯15個を用いた。

▼新聞に「毒餌」の文字が。辞典に「毒を飲ませる」とあるから殺鼠剤。「猫いらす」とも呼ばれたのは、昔、ネズミ駆除にネコを飼う家が多かったため。狩りを本能として持つネコだが、愛猫ブームの中で、猫じゃらしに戯れても、ネズミを捕まえる本能は、退化してしまっただけではないか。